

## 23. 薬学部

(1) 薬学部の教育目的と特徴	23-2
(2) 「教育の水準」の分析	23-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	23-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	23-9
【参考】データ分析集 指標一覧	23-11

## (1) 薬学部の教育目的と特徴

### 1. 教育目的

本学部は、医療に直接携わる薬剤師、薬の創製に関する基礎および応用研究者、さらにこれらの分野で指導的役割を担う人材を組織的に養成する。

### 2. 教育プログラムの特色

- ・創薬科学科と臨床薬学科は共通のカリキュラムで基礎薬学を履修している。
- ・第3期中期目標期間において、創薬科学科のみならず、臨床薬学科の学生全員に、薬学少人数ゼミナールを受講させ、卒業研究で学びたい研究室を4つ訪問させ、自らが選択した学問領域で卒業研究ができる仕組みを構築した。この結果は、学生のモチベーションの向上につながり、問題解決能力醸成に繋がる。
- ・近年薬学を取り巻く環境がグローバル化していることを踏まえ、国際化を推進するため、継続的に短期留学制度を実施している。特に、第3期中期目標期間において、これまでの国際交流の実績を梃子に平成30年度創薬科学科入学生から国際コースを設置した(定員5名)。令和元年度2年生から国際コースを専攻した学生には、招聘した教員による英語での講義、討論の実施などによる国際化に見合った教育を行っている。これらは、国際性を持ち様々な局面に対応できる人材の育成に役立つ。
- ・臨床薬学科学生で選抜された学生には、創薬科学科目国際コース学生に開講している「国際薬学特別研修A」を受講させ、「医療ツーリズム」等へ対応可能な国際的な感覚を持った薬剤師の育成にも努めている。

3. 以上の教育目的と特徴は、本学の中期目標記載の基本的な目標「「アクティブ・ラーナー」及び「骨太のリーダー」の育成を目指した「基幹教育」を開始し、学生が自ら学び自らを育てる教育の実践に努めてきたことを基盤として、学部教育を通貫したカリキュラムの見直しや全学的な国際化への対応を進める。」を踏まえている。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 7323-i1-1）
- ・ 公表された学位授与方針（令和元年9月改訂）（別添資料 7323-i1-2）  
（添付理由：令和元年度に学位授与方針、教育課程方針、及び学生受入方針を見直し、別添資料 7323-i1-1 を 7323-i1-2 へ改訂したため）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 7323-i2-1）
- ・ 公表された教育課程方針（令和元年9月改訂）（（再掲）別添資料 7323-i1-2）  
（添付理由：令和元年度に学位授与方針、教育課程方針、及び学生受入方針を見直し、別添資料 7323-i2-1 を 7323-i1-2 へ改訂したため）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

**<必須記載項目 3 教育課程の編成、授業科目の内容>**

**【基本的な記載事項】**

- ・ 体系性が確認できる資料（別添資料 7323-i3-1）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料（別添資料 7323-i3-2）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 平成30年度に薬学教育評価機構から、臨床薬学科のカリキュラム編成が「改善すべき点なし」との評価を得た。（（再掲）別添資料 7323-i3-2） [3.1]
- 薬学領域は医薬化学系、物理薬学系、生物薬学系、医療薬学系科目から構成されている。基幹教育、専攻科目において、九州大学教育改革推進本部の指導の下、令和2年度入学者に向けて、新しいディプロマ・ポリシーを作成し、体系的な教育プログラムの見直しを実施した。（別添資料 7323-i3-3～4） [3.1]
- 薬を取り巻く環境がグローバル化したことに対応して、創薬科学科に国際コースを設置し、国際性を涵養するための教育プログラムを構築した。（（再掲）別添資料 7323-i3-1） [3.2]
- 総合大学としての多様性を背景に、特定の学部を指定せず学際的な学びを展開する総合科目を開いている。（別添資料 7323-i3-5～7） [3.3]
- 専門教育で培った知を分野横断的に広げる高年次基幹教育科目を開いている。（別添資料 7323-i3-8～10） [3.4]

**<必須記載項目 4 授業形態、学習指導法>**

**【基本的な記載事項】**

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（別添資料 7323-i4-1）
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料（別添資料 7323-i4-2～4）
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 7323-i4-5）
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料（別添資料 7323-i4-6）
- ・ 指標番号5、9～10（データ分析集）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 文理混合で学際的テーマについて協働学習を行うPBL科目である課題協学科目を全学必修科目として開いた。（別添資料 7323-i4-7～8） [4.1]

## 九州大学薬学部 教育活動の状況

- 学部学生の研究マインドの醸成は、各分野（研究室）で学生が受講する特別実習（創薬科学科）、卒業研究（臨床薬学科）を通して育成することが有益と考え、令和2年度学部入学生から3年生の後期（現在は4年生前期）から分野配属を実施することを教授会で決定した。（別添資料 7323-i4-9、（再掲）別添資料 7323-i3-3～4）[4.1]
- 薬学部では、台湾、タイ、マレーシアの大学と交流協定を結び、九州大学、独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）等からの支援をうけ、積極的にインターシップを実施している。また、薬学を取り巻く環境がグローバル化したことを踏まえ、平成30年度から、創薬科学科に国際コースを設置した。[4.2]
- 学部生全員にパソコンを必携にしている。臨床薬学科では、学内共通のM2B（みつば）学習支援システム（中でもe-ポートフォリオシステム Mahara を多用している）を用いて講義を行った。[4.3]
- 2専攻4部門に教員を配置し、医薬化学系、物理薬学系、生物薬学系、医療薬学系の学問領域をカバーしている。また、臨床薬学教育センターに、実務家教員（薬剤師実務5年以上の経験者）を3名配置し、臨床薬学科の学生に、実務家教員の経験を踏まえた、実践的な講義、実習を教授した。教員1名あたりの学生数は10名以下である。[4.4]
- 臨床薬学科の卒業研究を複数指導体制にし、卒業研究期間中にもう一つのアセスメント（卒業研究中間演習）を実施することを教授会で決定した。（別添資料 7323-i4-10～11）[4.5]
- 臨床薬学科においては、薬局実習、病院実習を実施する前に、実務実習プレ実習を開講している。[4.6]
- 臨床薬学科卒業生（新卒）の薬剤師国家試験合格率が、平成28年度～平成30年度の3年連続100%である。（別添資料 7323-i4-12）[4.7]

### <必須記載項目5 履修指導、支援>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 7323-i5-1）
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 7323-i5-2）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 7323-i5-3）
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 7323-i5-4～5）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 九州大学全体のサポート体制に準じた学生支援を行なっているが、学部3年生までは、クラス指導担任（学科毎に2名）を配置している。創薬科学科、臨床薬学科とも2年生、3年生は進学時にクラス指導担任との面談を行い、学生の学修状況の把握、メンタルケアを実施している。必要があれば、薬学教務委員会が個別面談等を実施する。いずれの学科とも4年生から研究室（分野）に配属するため、各分野責任者（教授または准教授）の主導の下、メンタルケア等の学生支援を実施している。[5.1]
- 各学年の最初の講義に履修説明会を薬学部教務委員会が担当し、学年毎の履修に関して細かい指導を実施している。また、3年生まではクラス指導担任が学生の履修相談にのり、4年生以上では、学生が所属する研究室の主旨導教員が履修指導を実施している。その結果、創薬科学科、臨床薬学科とも過去3年間の標準修業年限内卒業者が93%を超えている。（（後掲）別添資料7323-ii1-1）[5.2]
- 振返りや将来の目標設定を通してキャリアに目を向けさせる初年次必修科目基幹教育セミナーを開いている。（別添資料7323-i5-6～7）[5.3]
- キャリア形成に必要な科目（特に臨床薬学科）を配置している。（（再掲）7323-i3-1）[5.3]

**<必須記載項目6 成績評価>**

**【基本的な記載事項】**

- ・ 成績評価基準（別添資料7323-i6-1）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料7323-i6-2）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料7323-i6-3）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 基幹教育では成績評価はルーブリックに基づくものとし、シラバスで評価方法（含ルーブリック）を公開している。（別添資料7323-i6-4～5）[6.1]
- 令和元年度に成績開示された科目において、A（100点満点、90点以上）が最も多く、AとB（100点満点80点以上）は、合格者の2/3を占めているので、単位取得者は高い理解度で科目を履修している。[6.2]

## <必須記載項目7 卒業（修了）判定>

### 【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 7323-i7-1）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料 7323-i7-2）

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 研究マインドを持った薬剤師を育成するために、臨床薬学科「卒業研究」の評価は、複数指導體制、複数のアセスメント（卒業発表会と中間発表会）を実施することを教授会で決定した。また、令和2年度入学者から、これらのアセスメント「卒論発表」「卒業研究中間演習」を単位化することも決定した。この結果、臨床薬学科ディプロマ・ポリシーの専門的な技能（科学的思考力に基づく研究遂行と問題解決の基礎能力をもつこと）の育成に貢献することができると考えられる。（（再掲）別添資料 7323-i4-10～11） [7.1]

## <必須記載項目8 学生の受入>

### 【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 7323-i8-1）
- ・ 学位授与方針（令和元年9月改訂）（別添資料 7323-i8-2）  
（添付理由：令和元年度に学位授与方針、教育課程方針、及び学生受入方針を見直し、別添資料 7323-i8-1 を 7323-i8-2 へ改訂したため）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 7323-i8-3）
- ・ 指標番号 1～3、6～7（データ分析集）

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 入学者促進に向けて高校生にむけたオープンキャンパスを、大学から徒歩圏内のホテルを借りて実施している。福岡県内、福岡県外から毎年 500 名程度の生徒が参加しており、学部受入定員（80 名）に対しては非常に多い。オープンキャンパスでは、保護者に向けた説明会も実施し、部局の魅力を発信している。（別添資料 7323-i8-4～5） [8.1]
- 志願倍率は創薬科学科（2 倍程度）、臨床薬学科（2.5～3 倍程度）であり、適正な学力を持つ入学者を確保している。 [8.2]

<選択記載項目 A 教育の国際性>

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（（再掲）別添資料 7323-i4-4）
- ・ 指標番号 3、5（データ分析集）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 正課の授業外での自主的な英語学習のサポートを目的として、基幹教育院が設置した SALC (Self-Access Learning Center) を本学部生が利用できるようにしている。（別添資料 7323-i A-1） [A. 1]
- 本邦は、アジアにおいて唯一新薬を開発できる国であり、医薬品は高齢化社会には欠かせないものである。平成 30 年度から創薬科学科には国際コースを設置し、令和元年度 2 年生の国際コースの学生は、外国人教員による医薬化学系、物理薬学系、生物薬学系、医療薬学系英語講義 I と 4 つの系の英語討論 I（一つを選択必修）を受講した。製薬企業との共同研究実績を持つ欧州出身の外国人研究者を部局の准教授として採用した（5 年任期、評価の上再任あり）。当該外国人教員は英語教育をコーディネートし、国際コース学生のメンターの役割を担っている。（別添資料 7323-iA-2） [A. 1]
- 国際コースに所属する学生は、2 週間台湾の大学で国際薬学特別研修 A を受講した。（（再掲）別添資料 7323-i3-1） [A. 1]
- 担当協定等を締結した海外の大学から、令和元年度は 20 名程度の留学生を受け入れ、各分野（研究室）の所属学生との交流を行ったり、基礎薬学実習を学部 3 年生と受講したりするなど、グローバル人材育成に努め、創薬科学科国際コースのディロマ・ポリシーの到達目標の達成に貢献している。 [A. 1]



## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### <必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 7323-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 7323-ii1-2）
- ・ 指標番号 14～15、17～20（データ分析集）
- ・ 指標番号 16（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7323-ii1-3）
- ・ 薬学課程卒業者の薬剤師国家試験合格率（厚生労働省公表）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 臨床薬学科卒業生は、平成28年度から平成30年度の3年間の薬剤師国家試験合格率が100%である。この結果は、臨床薬学科のディプロマ・ポリシー（知識・理解）（化学系薬学、物理系薬学、生物系薬学及び医療系薬学を基盤とした幅広い知識を理解し、論理的に思考できる）という到達目標に概ね達していることを示している。[1.2]

### <必須記載項目2 就職、進学>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～22（データ分析集）
- ・ 指標番号 23～24（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7323-ii2-3～4）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 直近3年間の創薬科学科卒業生は93%が修士課程に進学し、そのうちの6割が製薬企業に就職している。また、修士課程修了者の3割は博士後期課程に進学し、そのうち4割は製薬企業に就職している。学部2年生、3年生を対象に製薬企業に勤務しているOB（研究職、臨床開発職）を招聘し、製薬企業での活動の一環を紹介し、質疑応答を実施している。（別添資料 7323-ii2-1～2）[2.1]

<選択記載項目C 就職先等からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料  
(別添資料 7323-iiC-1~2)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 創薬科学科はほとんど薬学府創薬科学専攻（修士課程）に進学するため、就職先等への意見聴取については、臨床薬学科についてのみ実施した。平成28年度から平成30年度薬学部臨床薬学科の学生の進路先に、11項目（専門分野の知識、幅広い教養・知識、専門分野に関連する他領域の基礎知識、知識や情報を集めて自分の考えを導き出す能力、チームを組んで特定の課題に適切に取り組む能力、ディベート・プレゼンテーション能力、国際コミュニケーション能力、異文化理解能力、仕事に対する使命感や責任感、積極性・リーダーシップ、実務能力、期待通りの活躍）の内容について5段階評価を依頼した。（（再掲）別添資料 7323-iiC-1）該当者の職種は、ほとんどが薬剤師であり、すべての項目で、「極めて劣る」、「劣る」と評価した就職先はほとんどなかった。また、「期待通りの活躍」という項目では、8割以上の学生は、「優れている」との評価を得た。（（再掲）別添資料 7323-iiC-2）臨床薬学科ディプロマ・ポリシー（知識・技能）（医薬品の適正使用を推進するため、服薬指導・薬歴管理・リスクマネジメント・効果的で安全な薬物療法の提供など、薬剤師としての知識を持っている）という到達目標を概ね達成した学生を育成したことがわかった。[C.1]

## 【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※  部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。

※  部分の指標（指標11）については、研究活動の状況に関する指標として活用するため、学部・研究科等ごとの現況調査票（教育）の指標には活用しません。